

平成 30 年度
第 2 回周南市まち・ひと・しごと創生戦略会議
会 議 録

日 時：平成 30 年 8 月 20 日（月） 10 時から

場 所：周南市役所 シビックプラットホーム棟 2 階 共用会議室H

【会 議 次 第】

1 開 会

2 議 事

(総合戦略) 推進施策に関する進捗状況の検証について

3 閉 会

《 配付資料 》

- ・ 第2回戦略会議次第
- ・ 委員名簿
- ・ 配席表
- ・ 目次と評価方法
- ・ 総合戦略に係る実施事業評価
- ・ 目標指標について

第2回 周南市まち・ひと・しごと創生戦略会議 会議録

- 日 時 平成30年8月20日（月） 10時から
- 場 所 周南市役所 シビックプラットホーム棟2階 共用会議室H
- 出席者 ・委員 9名
河田 正樹、小松 佐穂子、梅野 潤子、中川 明子、
久野 耕一郎、奈村 幸一郎、乃村 克利、國弘 賢、梶村 実行
- ・事務局 6名、主要事業担当者
政策推進部長 山本 敏明、政策推進部次長 中村 和久、
企画課長 川口 洋司、課長補佐 中村 貴子、企画担当係長 中村 充孝、
主任 通山 汐里、主要事業担当者（18名）
- 資 料 ・会議次第のとおり

会 議 議 事 録

1 開 会

2 議事：（総合戦略）推進施策に関する進捗状況の検証について

- 会長 前回に引き続き、「総合戦略の推進施策に関する進捗状況の検証」を行います。前回、基本目標2まで終えておりますので、基本目標3の（1）「共創プロジェクトの推進」から検証に入ります。
- 【基本目標3の（1）についての議事】
- ◇事務局 ～基本目標3の（1）について説明～
- 会長 ありがとうございます。委員の皆様、ご意見をお願いいたします。
- 委員 共創プロジェクトについて、説明をお願いいたします。
- ◇事務局 共創プロジェクトとは、団体と団体が連携し、福祉や子育て、環境問題等、市の様々な課題の解決に繋がるプロジェクトを、市民の皆様に企画していただき、実際に取り組んでいただくものです。市としては、企画の段階からプロデューサーに入っていただき、実際の活動等に対して支援を行っています。また、初期投資費用について、100万円を上限に補助を行っています。その後プロジェクトを継続していただくことで、共創の地域づくりを実現していく、という取組になっております。
- 委員 基本目標に対する数値目標の「25～39歳人口の転出超過数」について、平成29年度に転出超過数が大きく増えていますが、原因はあるのでしょうか。

- ◇事務局 人口問題は構造的な問題であり、東京一極集中が全国的な傾向としてあります。周南市についても平成29年度は特に転出超過数が大きく増えました。原因を特定することはなかなか難しいのですが、働く場は周南市には多くあると考えています。では、なぜこの年齢層の人口が減っているのかというと、住む場所の選択において、郊外に人が流れてしまっているという点があります。具体的に申しますと、防府市や下松市等、そういったところに人が流れてしまっているのではないかと考えております。
- 委員 特に大きな要因があるわけではないということでしょうか。
- ◇事務局 そのように考えております。
- 会長 転出届を提出する際、転出する理由を任意で書いてもらっているのではなかったでしょうか。
- ◇事務局 総合戦略策定時は、県からも要請がありそういったアンケートを行っていましたが、現在は行っておりません。
- 会長 住民基本台帳では、転出先がどこなのか、市町村レベルで分かりますよね。そこから分析を行っていただく必要があると思います。
- 委員 共創プロジェクト事業について、「認定事業数」の平成29年度の実績値が13件とありますが、その13件はどういった事業なのでしょう。ホームページ等を見ると、中山間地域での共創が多いという印象を受けました。また、「創業数」について5件、「新規就労者数」について3人とありますが、これをどのように評価されているのでしょうか。この共創プロジェクトというものが、若者・女性が住みたいというところに繋がるものなのでしょうか。
- 会長 まず、13の事業について、いくつか例を挙げていただけますか。
- ◇事務局 「新規就労者数」について説明しますと、道の駅にお店を出し、40歳以上の引きこもりに対する就労支援を行う事業で1名パートで雇われています。他には、中山間地域になりますが、須金の事業で2名雇われ、民泊の事業を展開しています。
- また、13件の認定事業については、大津島地区で「すだいだいビール」を作っていたり、また、「タク^{しゅ}酒一」といって、JTBと周南観光コンベンション協会が連携し、タクシーで市内の酒蔵を巡るツアーを企画する等、数々の事業が展開されています。
- 委員 若者・女性が住みたいというところにつながっているのでしょうか。
- ◇事務局 昨年度もご指摘がありましたが、共創プロジェクト事業は、あくまでも地域づくりの活動を推進していくプロジェクトです。間接的ではありますが、地域の魅力が高まるような活動を行うことで、人が留まる、若しくは呼び込める、戻って来てもらうというようなまちづくりを行うという観点から、共創プロジェクトに取り組んでいます。若者・女性等による地域課題の解決や、市民ニー

ズへの対応に繋がるような持続的な取組を創出し、その取組を市は支援していきたいというところです。

◇事務局 補足ですけれども、6割から7割程度が中山間地域を事業の実施場所、若しくは対象とした事業になっており、中山間地域の事業が多い状況です。

●委員 若者は街なかで頑張りたいと言っていますが、その辺りがうまくかみ合えばいいなと思います。

○会長 昨年は、KPIが主要事業と同じ指標である「共創プロジェクト申請数」でしたが、昨年の会議の意見を踏まえ、雇用が増えたことが分かる指標に変更したということですね。

●委員 「共創プロジェクト事業」の目標指標である「共創プロジェクト申請数」について、目標値と実績値の乖離が大きいですね。共創プロジェクトの申請のハードルが高いのか、そもそもニーズが無いのか、どのように分析しているのでしょうか。このままだと平成30年度の目標である累計70件は厳しいように思えるのですが。

◇事務局 ご指摘のとおり、目標値の達成は難しい状況であると思っております。プロデューサーと地域づくり推進課の職員が連携し、申請から採択に至るまで支援できる態勢を取っていますが、なかなか実績に結び付いていません。

また、実績値についてですが、平成28、29年度で、約60件の問合せがありました。その中で申請に結び付いたものが、22件です。プロジェクトの要件自体にも難しい部分があるかと思っておりますので、対象要件の見直しや取組みやすい仕組みづくり等を行いながら、引き続き取組を進めていければと思っております。

●委員 認定事業数13件のうち、全てが事業を開始しているのでしょうか。

◇事務局 全て事業を開始しております。

●委員 13件事業を開始した中から、3名の新規就労者が生まれたということですね。

◇事務局 そうです。

○会長 では評価に移ります。事務局の仮評価はCですが、説明の中にもありましたように、事業を進めていくことに変わりはありませんが、対象要件の見直しや取組みやすい仕組みづくり等が課題であるということですね。その辺りの見直しを行いながら進めるということで、C評価といたします。委員の皆様、よろしいでしょうか。

●委員 (意見なし)

○会長 ではC評価といたします。続いて次の評価に移ります。

【基本目標3の(2)についての議事】

◇事務局 ～基本目標3の(2)について説明～

○会長 ありがとうございました。委員の皆様、ご意見をお願いいたします。

○会長 「クリエイティブ産業進出支援事業」について、実績値がまだ0ですが、準備は進めているということでしょうか。

◇事務局 平成28年度から事業に取り組んでおりますが、当初は、東京や京都等の都市部をはじめ、県外へ情報発信を行うことで、クリエイティブ系の事業所の誘致や、フリーランスのクリエイターを呼び込む活動を行ってまいりました。

 しかし、その後、一部の市内のクリエイターの皆様から、「そもそも市内のクリエイターが活躍できる環境が整っていない。もっと、市内のクリエイターに目を向けてほしい。」というご指摘をいただきました。このため、平成29年度から取組の変更を行い、市内のクリエイターの皆様に個別に訪問し、事業の趣旨等を説明し、賛同者や仲間作りを行い、その後、市内のクリエイターを中心とした研究会を立ち上げて課題の抽出を行いました。周南市をクリエイティブなまちにするための魅力づくりに取り組むことで、市外や県外のクリエイターの方々に周南市に進出してもらおう、というところまで繫げたいと考えております。実績としては、平成29年度については県外への情報発信が弱かったため、実績値が0になっております。

 しかし、今年5月、ITを活用したテレワークを手掛けている企業が周南市へ進出してくれました。また、企業誘致について、東北の情報通信産業が1社、東京の情報通信産業が1社、計2社が年度内に進出されるということで、現在協議を行っているところです。これらが整えば、平成30年度の目標値である3社は達成できると考えております。

●委員 現在進行中の話について、周南市のこういったところに魅力を感じて進出してくれることになったのでしょうか。

◇事務局 先ほど申し上げた2社については、クリエイティブの取組に関わった企業です。東北の企業については、今年3月に、徳山駅前賑わい交流施設にて大きなクリエイティブイベントに協力いただいた企業です。東京の企業については、平成29年度のクリエイティブ産業進出支援事業に参画していただいた企業です。いずれも、この事業に関わりのあった企業を周南市に誘致するものです。

●委員 この事業が次に繋がる可能性があるということですね。

◇事務局 そうです。少しずつ成果が現れていると認識しております。

○会長 他にご意見ございますか。なければ評価に移ります。

 事務局の仮評価はAとなっておりますが、主要事業やKPIの実績値について、目標値を上回っていますし、「認定就農者数」については、目標値を上方修正したにも関わらずそれを達成しています。「クリエイティブ産業進出支援事業」のみ実績が上がっていませんが、進行中ということです。こういった点を踏まえ、A評価でよろしいでしょうか。

●委員 (意見なし)

○会長 ではA評価といたします。続いて次の評価に移ります。

【基本目標3の(3)についての議事】

◇事務局 ～基本目標3の(3)について説明～

○会長 ありがとうございます。委員の皆様、ご意見をお願いいたします。

●委員 「UJIターン促進事業」について、Uターン、Jターン、Iターンはそれぞれどういった比率で、どういった仕事に就きたいという相談が多いのでしょうか。

◇事務局 Iターン、Jターンのいわゆる周南市以外の出身の方々からの相談が約8割です。仕事については、市の窓口やお電話でのお問い合わせに関しては、ある程度ご自分で目途をつけて相談される方が多いです。よって、仕事についてのお問い合わせは1割弱程度で、比較的少ないと認識しております。しかし、東京等で開催される移住フェアについては、将来的に移住を考えている方からの相談が多いので、仕事に関するお問い合わせもいただきます。そういった際には、フェアから戻って、周南市の仕事についての情報を郵送等で提供しております。

●委員 仕事に関する相談は1割弱ということですが、残りの9割についてはどういった問い合わせが多いのでしょうか。

◇事務局 住む場所の相談が一番多いです。街なかの不動産情報については、不動産業者が街なかに多数いらっしゃいますので、あまり相談は多くありません。しかし中山間地域については、不動産業者もあまりいらっしゃいませんので、住む場所についての相談が多いです。また、「田舎暮らし」というキーワードの中で移住を検討している方が多数を占めており、その地域の生活や教育等、そういったお問い合わせをいただくことが多いです。

●委員 Iターン、Jターンについては、別に周南市ではなくてもいい人ばかりだと思います。その中で、周南市の魅力について、どういったところをPRしているのでしょうか。

◇事務局 ご指摘のとおり、どこに住みたい、と決めている方は少なく、多数候補がある中で周南市を選んでいただくことが重要です。相談に来られる方は、山口県は災害の少ない県だというイメージを持っている方が多いです。また、瀬戸内は穏やかな気候で暖かいことも一つのポイントだと考えています。

中でも一番のポイントは、中山間地域と中心市街地が近い、ということです。中山間地域から20分、30分程度で中心市街地に出ることができますので、中心市街地で働いていただいても通勤圏内ですし、道路交通網も整っていますので、そういった面での生活のしやすさをお伝えするようにしています。

また、最も不安視される点として挙げられるのは、見ず知らずの地域に移住することによる、生活に馴染んでいくことの大変さです。せっかく移住されて

も定着を図れないという事例は全国に多々あります。そのため、「里の案内人」という、住民の方が自ら移住相談に対応し、その後も地域の中で生活しやすいようフォローしていくといった活動を行っており、その点もPRしているポイントです。

○副会長 KPIの「市の制度を活用し、中山間地域へ移住した世帯数」について、平成29年度は累計41件ということで大きく目標値を上回っていますが、移住された方々の年齢構成はどのようになっているのでしょうか。

◇事務局 平成29年度は6世帯の方が周南市に移住されました。そのうち5世帯の方が20代から50代のいわゆる現役世代で、1世帯は60代の方です。

○会長 移住相談にも世代の差はありますか。

◇事務局 電話での移住相談が多いので、声で判断しますと、ここ4、5年の傾向としては、若い方が増えている印象です。平成25年度以前は、退職された方が相談件数の6割から7割を占めていましたが、それ以降は、移住フェアや電話相談を含め、30代や40代の若い方が増えています。詳細なデータは持ち合わせておりませんが、実際に相談対応をする中では、現在6割から7割が現役世代だと考えております。

○会長 現時点でも進捗状況は良いように見受けられますが、周南市が選ばれるためには、ターゲットを絞ったマーケティングを検討した方が、より効果的なのではないでしょうか。Uターンについては市の職員の方にも多いですが、Iターン、Jターンは人口の純増に繋がりますので、そこを戦略的に頑張っていくというのは、一つの方策なのではないかと思えます。

●委員 中山間での移住、創業については、信用金庫も力を入れて助成金を出しておりますが、起業される方はなかなかいらっしゃらないのでしょうか。

◇事務局 平成29年度は、金融機関にも協力していただき、Uターンされた方が鹿野でパン屋を開業されました。ご指摘のとおり、起業へのハードルは高いと感じておりますが、起業に関する相談はございます。実際に起業された方のPRを行うことで、同じように起業される方が増えると思えますので、引き続き金融機関と連携して取組を進めたいと考えております。

○会長 他にご意見はありませんか。なければ評価に移ります。

事務局の仮評価はA評価ですが、数値を見ると順調に推移していますね。よってA評価でよろしいでしょうか。

●委員 (意見なし)

○会長 ではA評価といたします。続いて次の評価に移ります。

【基本目標3の(4)についての議事】

◇事務局 ～基本目標3の(4)について説明～

○会長 ありがとうございます。委員の皆様、ご意見をお願いいたします。

- 委員 「地元企業が求める人材の育成」について、目標指標が「授業コマ数」となっていますが、平成30年度は30コマの予定ですが、具体的にはどういった授業をされているのでしょうか。
- ◇事務局 徳山高専の事業ですが、「山口県東部地区における技術教育ハブ拠点の構築」として、教育パッケージの構築に取り組むということです。文科省に採択され、今年度から本格的に取り組まれるということです。具体的な授業まではお伺いしていませんが、地元企業からプラント工学の知識を持つ学生の要望が多くあるということで、そういった人材育成に取り組むため、授業を構成するとお伺いしております。
- 委員 KPIの「市内の高等教育機関を卒業し、就職した学生の市内就職率」について、平成29年度の実績が13パーセントとなっていますが、徳山大学や徳山高専の内訳は分かりますか。
- ◇事務局 徳山大学について、就職者数141人中16人が市内就職者です。徳山高専については、就職者数94人中14人が市内就職者です。
- 委員 平成29年度の目標値である18パーセントについては、何に基づいて計算されているのでしょうか。
- ◇事務局 徳山大学と徳山高専に、将来5年間の就職率の見通しをお伺いし、算出した数値です。
- 会長 COC事業という文科省の事業に申請する際にこの目標値を出しており、それをそのまま記載しております。正直難しい目標だと感じております。徳山大学について、県内出身の学生は県内に就職する傾向にありますが、スポーツに力を入れて県外から学生を呼び込んでいることもあり、そういった学生は地元に戻ってしまいます。中には県内に留まってくれる学生もいますので、その辺りには期待しているところです。
- また、県内に就職する学生は多いですが、市内というように絞ってなくて、県内に残りたいという学生が多い印象です。周南市から徳山大学に通っている学生は少なく、防府市等から通っている学生は、県内ならどこでもいい、という感覚を持っている子が多いので、周南市内は難しいと思います。
- 「地（知）の拠点による地方創生（COC+）事業への参加」の実績値である「県内就職率」の33パーセントについても、そもそも県内の学生が3割に満たないので、なかなか難しいところです。今の1年生は随分県内出身者の学生が増えましたが、4年生は2割程度だと思います。徳山大学としては、なかなか達成は難しい数字だと思います。徳山高専はいかがでしょう。
- 副会長 徳山高専は、専攻している学科によって就職先が異なっており、年によっても変動が大きいので一概には申し上げられませんが、機械系と土木建築系は、周南市に残りやすい学科です。土木建築系は、今年も周南市役所に数名採って

いただいていますので、そこが一番有効な就職先になっています。機械系については、周南市内の企業に就職する学生が多いです。

特に流出が多いのは情報系の学科を専攻している学生で、自分の能力を試したいという高い目標を持った学生ほど、東京や関西圏へ出て行ってしまう傾向にあると思います。

ただ、先ほどもありましたように、周南市内だけでなく、県内まで目を向けると、徳山高専の学生も3割程度は県内に就職している印象です。今年は900社程度から求人をいただいています。県内企業からいただく求人数はそのうちの13パーセント程度です。その県内求人数に対して、徳山高専の卒業生のうち3割程度は県内の企業に就職していますので、県内の就職率については、徳山高専の学生は頑張ってくれているのでは、と思っています。求人数に若干翳りが見えてきましたので、今後全体の求人数が下がると、県内の就職率が上がってくるのではと思います。

○会長 この推進施策のコンセプトとしては、優秀な学生を県外へ流出させず、県内の高等教育機関で育て、県内へ就職させることが目的です。今後も徳山大学や徳山高専としては、引き続き頑張りたいところです。

○副会長 「市内企業インターンシップ推進事業」の取組について、現在プラットフォームの運用を行っているようですが、具体的にはどのような活動を行っているのでしょうか。

◇事務局 県内の高等教育機関や経済団体、行政機関が相互に連携する仕組みということで、山口県インターンシップ推進協議会において、地元の学生に対してインターンシップの機会を提供し、地元の雇用を促進する取組を行っています。これまでの取組を見ると、成果が上がってきていると認識しております。成果が上がる仕組みが既に構築されておりますので、周南市の取組としては、山口県インターンシップ推進協議会と連携し、市内のインターンシップを体験できる環境を整えていきたいと考えております。具体的に申し上げますと、山口県インターンシップ推進協議会に約500社の企業の登録があります。この登録は、インターンシップを提供することが可能な企業数です。このうち、市内の登録企業数は約60社です。今後、市内の登録企業数を増やすことで、学生のインターンシップの選択肢を増やしていきたいと考えています。

○会長 他にご意見はありませんか、なければ評価に移ります。

事務局の仮評価はB評価ですが、ここは市の取組というより、大学や高専の取組の部分が大きいですね。また、目標の設定の仕方についても、文科省に提出している目標に合わせているので、なかなか達成が難しい部分もあり、正直いじりようがないという面が大きい気はします。B評価ということでよろしいでしょうか。

●委員 (意見なし)

○会長 ではB評価といたします。続いて次の評価に移ります。

【基本目標4の(1)についての議事】

◇事務局 ～基本目標4の(1)について説明～

○会長 ありがとうございます。委員の皆様、ご意見をお願いいたします。

●委員 K P Iの「中心商店街等の新規出店数」について、出店数は目標値を上回っていますが、閉店数はどの程度あるのでしょうか。閉店と開店のバランスを見ることも大切だと思います。

◇事務局 こちらの数字については、毎年秋に山口県において実施される「商店街現況調査」での数字を取るようになっています。その際に閉店数も把握しておりますが、平成29年度は開店34店舗に対して、閉店31店舗です。それまでも、概ね開店と閉店が同程度の数字で推移している状況です。

●委員 閉店する店舗は、どのくらいの期間営業されていたのでしょうか。

◇事務局 平成29年度に閉店した事業所については、この1、2年で新規に開店しすぐに閉店、という事業所はありません。長らく中心商店街で営業され、何らかの事情があつてやむなく閉店されたケースがほとんどです。

●委員 賑わい創出の取組としてマルシェ等開催されており、人が集まる仕組みづくりとして大変良い取組だと思いますが、お酒の立ち飲みイベントの際、商店街の人からやめてほしいという話があつたということも聞いたことがあります。マルシェの実行委員会と商店街の方々の意思疎通や協力関係について、商店街の活性化に繋がるように今後も検討が必要かと思えます。

○会長 他に意見はありませんか。なければ評価に移ります。

事務局の仮評価はB評価ですが、数字を見ると全体として目標値を上回っているので、Bという仮評価は控え目な印象を受けますね。ただ、「街なかの歩行者等通行量」について、市役所が一時的に旧近鉄松下百貨店に移転していた影響があるかもしれません。よって、この「街なかの歩行者等通行量」は今後も継続的に増えていくのかを見極める必要があるかもしれませんね。この推進施策全体の進捗状況としては良いように見受けられますが、今後も状況を見極めていくということで、A評価に近いB評価でよろしいでしょうか。

●委員 (意見なし)

○会長 ではB評価といたします。続いて次の評価に移ります。

【基本目標4の(2)についての議事】

◇事務局 ～基本目標4の(2)について説明～

○会長 ありがとうございます。委員の皆様、ご意見をお願いいたします。

●委員 近年、訪日外国人観光客が増えてきていますが、周南市の外国人観光客はどのくらい増加しているのでしょうか。

- ◇事務局 平成29年度については、外国人観光客数は4,213名です。
- 委員 それは増えているのでしょうか。
- ◇事務局 そうです。平成28年度は3,833名、平成27年度は3,887名で、この2年間についてはあまり変動はありませんでしたが、平成29年度については4,213名ですので、若干増えております。
- 委員 外国人観光客をもっと増やしていこうという、具体的な施策はありますか。
- ◇事務局 平成29年度に、多国籍用のガイドブックを作成しております。周南市は企業城下町ということもあり、一般の外国人の方が観光に来られるというのはなかなか難しい部分があります。よって、今後の施策としては、教育旅行という形で修学旅行で来ていただき、さらに民泊を体験していただく、という方向で進めたいと考えております。
- 委員 周南市に限った話ではありませんが、中国などアジアからの観光客がこちらで消費を行う際、QRコードでの決済を望まれます。しかし、例えば唐戸市場で海鮮丼を食べるのに、現金を持っていないので食べられないという状況になっているという話を聞きます。周南市が商工会議所等と連携し、いち早くそういった部分について積極的に取り組んでいけば、外国人観光客に向けた環境整備という面でも効果的な取組になると思います。
- 副会長 「ニューツーリズム推進事業」について、「着地型観光の実施回数」が目標指標になっていますが、具体的にはどういった取組なのでしょう。また、「市の強みを生かした新たなイベントの開催」について、具体的にどのようなイベントのことを指しているのでしょうか。
- ◇事務局 「ニューツーリズム推進事業」についてですが、以前は「温泉地域観光振興計画策定事業」となっており、湯野温泉、石船温泉、三丘温泉の3つの温泉について計画策定を目指していました。しかし、湯野温泉について、国民宿舎湯野荘の民間譲渡、石船温泉については、土砂災害特別警戒区域に指定され移転の必要があり、温泉地域観光振興計画の策定からKPIを押し上げていく他の事業を検討し、「ニューツーリズム推進事業」に変更しました。観光地を巡るという従来の物見遊山的な観光旅行に対し、体験、交流、感動できる、周南市ならではのオリジナルなツーリズムを利用して観光していただきます。ツーリズムに関しては、グリーンツーリズムやエコツーリズム等様々なものがありますが、地域の方と触れ合って交流、体験していただく、そういった着地型観光の実施回数を目標値に設定しております。
- 「市の強みを生かした新たなイベントの開催」について、平成29年度から、徳山駅と港周辺にて「周南みなとまつり」を初めて開催しております。目標値については、年に1回の開催になっておりますが、大きなイベントを開催するにあたってたくさんの方々にご尽力いただいておりますし、今後も継続していく

ことが重要です。平成30年度についても、周南観光コンベンション協会が主体となって、2回目の開催に向けて準備を進めており、規模の拡大や新たなプログラムを検討し、観光客の誘客や地域の活性化に向けて取り組んでいます。

○副会長 「ニューツーリズム推進事業」について、体験型だということは分かりましたが、市内に住んでいる人がこの取組に参加するためには、どこにアクセスすればいいのでしょうか。

◇事務局 市のホームページや、周南観光コンベンション協会でも案内は行っております。よく行っているものとしては「古地図を片手に」という企画があり、徳山地区の毛利氏のお墓や、児玉源太郎の神社などを巡るプログラムを用意しております。

●委員 徳山動物園について、「周南市 観光」と検索すると、徳山動物園がまず出てきます。動物園については各地で集客の良いところと悪いところがありますが、KPIの「徳山動物園の入園者数」について、平成29年度が2万人程度増えている要因を教えてください。また、目標値と乖離がありますが、今後の見通しについて教えてください。

◇事務局 まず、入園者数が増えた要因の一つとして、平成29年の10月に入園料を値上げし、同時に年間パスポートの額を値上げしたことから、駆け込み需要による年間パスポートの購入者が増えたという点が挙げられます。

目標値との乖離についてですが、動物園の入園者数は天候に大きく左右されます。例えば、3月21日の開園記念日には雨が降り、約5,000人の入園者が見込まれていましたが、500人まで落ち込みました。しかし、リニューアル施設を毎年オープンさせており、今年8月5日にペンギンプールと噴水プールが完成し、夏でも動物園に足を運んでもらう環境づくりを行っております。平成25年にスリランカからゾウを2頭譲り受け、そのゾウの新しい獣舎が来春に完成予定です。まど・みちおさんが童謡「ぞうさん」を作詞された関係で、周南市とゾウには深い繋がりがあります。待望のゾウ舎の完成を受けた入園者数の増加により、目標値に近づくのではと見込んでおります。

なお、全国的な動物園の入園者数の合格点は、人口と同じ数であるといわれています。周南市の約14万人の人口に対して、毎年30万人近い入園者を集めている点は、他の動物園からも評価をいただいております。

○会長 徳山動物園の入園者は、どこから来ているのでしょうか。

◇事務局 市内、市外で半分ずつ程度です。

○会長 他の動物園に比べて、その割合はどうでしょうか。

◇事務局 各都道府県において、動物園があるところと無いところがあります。山口県は稀なケースで、宇部市のときわ動物園と、美祿市の秋吉台サファリランドがあり、徳山動物園を含めて県内に3カ所動物園があります。他県との比較はよ

く分かりません。

○会長 ネットで炎上するほど、うんこ展やゴキブリ展等、かなり攻めた企画をされていますが、結果に結び付いているのでしょうか。

◇事務局 3年前のゴキブリ展については、最初は批判されました。しかし、一部のSNSやテレビ等で紹介されたところ、批判が評価に変わりました。キモい動物を集めた企画については、テレビ愛知という名古屋のテレビ局が企画を買ってくれまして、企画監修料として1ヶ所につき324,000円が周南市に入ります。また、平成28、29年度は、東京、大阪、札幌の3カ所、平成30年度は4カ所で企画監修を行います。奇抜な企画ではありますが、評価していただいていると認識しております。

○会長 今年は何を企画されていますか。

◇事務局 「キモアニ研究所」といい、「きもい」と「肝試し」をかけた企画を行っております。

○会長 他に意見はありませんか。なければ評価に移ります。

事務局の評価はC評価ですが、いかがでしょうか。数字を見るとB評価でもいいような気がしますが、見直しが必要なものがあるかどうかですね。

○副会長 総合戦略の取り組み期間である平成31年度までの残り2年間で、最終目標値に達するのかどうかを考えると、厳しいように思います。目標値の見直しは検討されるのでしょうか。

◇事務局 KPIにもなっている「年間観光客数」について、平成31年度の目標値が180万人という大きな数字になっています。平成29年度については、目標の170万人に対して実績値は162万人と、目標に届かなかった結果となりました。平成29年度にJRが主催した「デスティネーションキャンペーン」があり、平成30年度は「明治維新150周年」があります。そういった企画を見越して目標値を設定しておりましたが、周南市を含めた山口県東部については、影響が少なく、思ったほど観光客数が伸びなかったということが要因として挙げられます。目標値の変更も検討する必要があると考えております。また、観光ビジョンと合わせてこの目標値を設定しておりますので、内部で精査を行いたいと考えております。

●委員 「ICT活用情報発信事業」について、今年度からシステム運用となっておりますが、どのような取組なのでしょうか。

◇事務局 市でシステム開発を行っているものではなく、JAF（一般社団法人日本自動車連盟）が全国的に進めている「デジタルスタンプラリー」というものがあり、防府市と広域連携を行っている関係で、防府市と合わせてデジタルスタンプラリーに登録しております。指定された観光施設に行くと、スマートフォンやタブレット等でデジタルスタンプを入手することができ、そのスタンプを集

めると、抽選で特産品がもらえる、という仕組みになっています。今年の12月までの登録になりますが、ドライブで各観光施設を巡っていただき、そこで観光していただくという企画です。今年の6月時点での参加件数としては、約100件となっております。後ほど資料をお渡ししますので、委員の皆様にもぜひ参加していただければと思います。

○会長 評価についてですが、主要事業やアクションプランの進捗状況は良いですが、KPIが目標値を下回っていますね。KPIを押し上げる仕組みを考える必要があると思います。頑張ってはいますが、もう少し戦略的に攻める取組をしていただきたいという意味を込めて、C評価といたします。いかがでしょうか。

●委員 (意見なし)

○会長 ではC評価といたします。続いて次の評価に移ります。

【基本目標4の(3)についての議事】

◇事務局 ～基本目標4の(3)について説明～

○会長 「コンベンションシティ推進事業」について、昨年度は目標指標が「コンベンション参加人数」でしたが、昨年度の会議でコンベンションの開催件数等のデータがほしいという意見がありました。その点も含め、目標指標の見直しについて説明をお願いします。

◇事務局 昨年の会議のご指摘を踏まえ、目標指標の見直しを行いました。コンベンション開催件数については、公共施設で開催されたものについては件数の把握が可能ですが、ホテルや民間施設等で開催されたものについては、民間企業からの情報提供が難しいという面があり、正確な件数の把握は困難です。それに加え、コンベンションの規模は大小様々なものがあり、小さいものがたくさん開催される場合と、1,000人規模の大きいものが数件開催される場合があります。そのため、年度間の件数の比較が難しいという点があり、目標指標としては、コンベンション開催件数ではなく、「コンベンションによる延べ宿泊者数」としました。これは、市がコンベンションの主催者に対して開催補助金を出しており、この補助金は、市内の宿泊施設に宿泊した延べ人数に応じて金額を設定しております。よって、正確な数字の把握が可能です。また、宿泊することにより市内での滞在時間が延び、市内での消費も期待できます。よって、年間の観光客数増加に寄与するのではないかと考えた点も、「コンベンションによる延べ宿泊者数」を目標指標に設定した理由の一つです。

●委員 宿泊者数が増えていますが、規模の大きなコンベンションが開催されたのでしょうか。それとも、規模の小さいものが多数開催されたのでしょうか。

◇事務局 平成29年度について、延べ宿泊者数が1,500人以上の大会が1件ありました。西日本の学生が様々なスポーツを行うために集う大会で、期間も1週間以上に渡って開催されたことで、長期の滞在になりました。また、競技の種

類が複数あったことで、宿泊者の延べ人数の増加に繋がりました。

●委員 そういった大規模なコンベンションは、今後も継続して周南市で開催される予定ですか。

◇事務局 先ほど述べた大会については、西日本の地区の持ち回りで開催されているので、継続して開催されるものではありません。宿泊のキャパシティ（許容量）等も考慮し、今後は1,000人規模のコンベンションの誘致に取り組みたいと考えております。

◇事務局 補助金という魅力もあってか、毎年開催される大会もあります。

●委員 補助金について、だんだん周知されてきているということでしょうか。

◇事務局 はい。そのように考えております。

◇事務局 平成29年度の実績で申し上げますと、中国大会以上のもので、周南市で再度開催されたものは13件あり、そのうちの11件が連続で開催されております。新規のものは20件で、先ほど説明した大会も含まれており、約4,000人の方が周南市に来られました。また、今年の1月にはバドミントンの「S/Jリーグ」も開催され、約2,000人の方が来られました。山口県東部でみると、大規模大会については、周南市のキリンビバレッジで開催したいというお声をいただいております。ただ、そこに甘んじるのではなく、各協会や各連盟としっかり連携することが重要だと考えております。中国大会や西日本大会は順番で回ってきますが、それ以外のものについてどうするかを考える必要があります。順番に回ってくる大会を待つのではなく、各協会や各連盟と連携し、タイミングの合うものについては協議を行いながら、大規模大会のみではなく、マスターズや合宿等、誘致を進めたいと考えております。

○会長 岩国市に新しくスポーツ施設ができ、今後の脅威になると思いますが、いかがでしょうか。

◇事務局 大規模大会に相応しい施設かどうかは分かりませんが、多くの施設が揃っていますので、脅威にはなると思います。広島東洋カープの2軍戦を毎年周南市で行っていましたが、今年は岩国市のスポーツ施設のこけら落としのため、岩国市での開催となりました。各協会や各連盟と積極的に協議を進めていくことにもう少し力を入れなくてはいけないと考えています。

●委員 コンベンションの補助金について、スポーツのコンベンションの補助金とそれ以外のコンベンションの補助金について、差はあるのでしょうか。

◇事務局 差はありません。

●委員 市として最も推進したいものは、スポーツコンベンションなのでしょうか。そうだとしたら、補助金にも差をつけた方が、スポーツについて誘致しやすくなるのではないかと思います。

◇事務局 スポーツコンベンションについてですが、全国大会、西日本大会、中国大会

を誘致した場合、補助金について一律いくら補助しますという形で、体育協会が補助しております。

◇事務局 スポーツやビジネスについて、補助金に差をつけることは考えておりません。周南市は企業城下町ですので、企業の総会を誘致し、企業の皆様にも来ていただきたいと考えております。差をつけるのではなく、両方について今後誘致を進めていき、コンベンション開催後、市内に宿泊していただき、夜型観光による相乗効果に繋げていきたいと考えております。

○会長 平成27年度の宿泊者数が多いのは、この年だけたまたま多かったのでしょうか。

◇事務局 はい。平成27年度は大きな大会が集中して開催されましたので、宿泊者が特に多かったです。

○会長 平成27年度以外は、目標どおり推移しているということですね。では評価に移ります。

事務局の仮評価はC評価ですが、平成29年度は目標値を上回っているものの、KPIの達成には至っていません。C評価でよろしいでしょうか。

●委員 (意見なし)

○会長 ではC評価といたします。続いて次の評価に移ります。

【基本目標5の(1)についての議事】

◇事務局 ～基本目標5の(1)について説明～

○会長 「地域エネルギー導入促進事業」について、平成29年度の実績に1施設とありますが、これは市役所新庁舎でしょうか、それとも徳山駅前賑わい交流施設でしょうか。

◇事務局 市役所新庁舎です。平成30年3月に電力供給を開始しましたので、平成29年度の実績に含めています。

○会長 徳山駅前賑わい交流施設についてはいつ頃になるのでしょうか。

◇事務局 これから送電設備を繋ぎ、今年の10月頃に供給開始予定です。

○会長 平成31年度の目標値が累計3件になっており、市役所新庁舎と徳山駅前賑わい交流施設以外にもう1件増やしたいということでしたが、その後いかがでしょうか。

◇事務局 電気事業法の特定供給ということで、経済産業省の許可が必要になります。具体的な話はまだありませんが、企業誘致等、幅広い面で情報発信を行っております。

○会長 電解コンビナートを有しているのは周南市の特徴ですので、今後も有効活用していく必要がありますね。

●委員 「コンビナート電力を供給する施設数」について、平成30年3月にトクヤマから市役所新庁舎に供給が開始されましたが、東ソーも発電設備を持ってい

ると思います。東ソーからの電力供給は検討しているのでしょうか。

◇事務局 協議は行っております。技術的な面では可能だとお伺いしております。

○副会長 「水素利活用推進事業」について、「燃料電池自動車・水素自動車の登録台数」の目標値を修正されていますが、平成30年度の登録台数の見込みは何台になりそうですか。

◇事務局 補助金について、平成30年度は2台分設定しております。多く見ても、30台程度ではないかと考えています。

●委員 平成29年度は1台登録が増えていますが、こういった方が購入されたのでしょうか。

◇事務局 個人の方が購入されました。

○会長 水素について、研究開発についても補助金を出しているようですね。

◇事務局 はい。

○会長 水素自動車のカーシェアリングについても行っているようですが、誰でも乗ることができるのでしょうか。

◇事務局 周南市民や、市内に通勤通学されている方であれば、事前に登録していただければどなたでも無料で利用可能です。

○会長 水素の充填費用も含めて無料なんですよ。

◇事務局 そうです。

○会長 その辺りをもう少し周知していく必要があるのではないのでしょうか。

評価について、水素に関連する取組について見直しが必要ということで、C評価でよろしいでしょうか。

●委員 (意見なし)

○会長 ではC評価といたします。続いて次の評価に移ります。

【基本目標5の(2)についての議事】

◇事務局 ～基本目標5の(2)について説明～

●委員 「公共交通ネットワーク形成事業」の「路線バスやコミュニティ交通の年間利用者数」について、平成29年度の実績値が増えていますが、要因について教えてください。

◇事務局 路線バスの利用者数とコミュニティ交通の利用者数を合算した数字を計上しております。路線バスの利用者について、平成28年度は約121万人、平成29年度は約130万人で、大きく増加しております。利用者数については事業者から報告をいただいております、集計方法については、5月から6月のある一日の利用者を集計し、その数字を基に、年間利用者数を計算しているということです。事業者には平成29年度の大きな増加の要因を聞きましたが、利用者を集計した日の天候等の影響があり、要因が定かではないということです。

取組としては、平成28年度に「地域公共交通網形成計画」を策定し、平成

29年度には、利用者の要望を聞くため、事業者とともに7つの集落を訪問しました。利用者からの声を業務に反映させるため、事業者も体制づくりを行いながら改善を行っております。

○副会長 平成29年度の利用者数の131万人の中には、実証実験を行っている「ちよい乗り100円バス」の利用者数は含まれていないという理解でよろしいでしょうか。

◇事務局 現在実証運行中ですので、計上しておりません。

●委員 利用者数の集計方法についてですが、ある一日の利用者を集計して年間の利用者数を算出するというのは、意味の無い数字のような気がします。

◇事務局 まちづくり総合計画にもこの数字を記載しており、公共交通の利用者という視点から、この目標指標を設定しております。20年という長い期間で見ると、バスの利用者は四分の一まで減少しているという傾向が見て取れます。公共交通の利用促進への効果の把握や、利用者ニーズへの対応ができていくかどうかを見るために最も効果的な指標だと判断し、利用者数を目標指標に設定しております。

○会長 防長交通はもっと詳細なデータを持っているのではないのでしょうか。ICカードで支払った方については把握できるのではないのでしょうか。パスモやイコカでデータを取ることができればいいのですが、この辺りでは利用ができませんし、バスカードでは恐らく利用者数のデータは取れません。

●委員 現在の利用者数の集計方法で、平成27年度から現在まで126万人、122万人、131万人と推移していますが、ここから何が読み取れるのでしょうか。

○会長 現在の集計方法では毎年の変動が大きいので、短期間では難しいと思います。5年間でそんなに減っていないということをおっしゃりたいのでしょうか。

◇事務局 横ばいの傾向であると捉えております。

○会長 本格的に行うのであれば、他にも調査が必要だと思います。数字の信頼性に欠けてしまいます。

「集約型まちづくり推進事業」について、目標指標はまだ設定されていないのでしょうか。

◇事務局 そうです。進捗状況を説明しますと、平成29年3月に都市機能誘導区域を設定しました。今年度は居住誘導区域を設定しており、今年度中に公表し、立地適正化計画は完成する予定です。

○会長 実績には上がっていませんが、着々と進んでいるということですね。

◇事務局 そうです。

○会長 他にご意見はありませんか。なければ評価に移ります。

事務局の仮評価はA評価ですが、委員の皆様いかがでしょうか。

- 委員 中心市街地は具体的にはどこからどこまでの区域ですか。
- ◇事務局 中心市街地活性化基本計画区域で説明しますと、南は徳山港、東は東川、北は総合庁舎のあたり、西は代々木公園のあたりまでです。
- 会長 K P I は順調に推移していますが、主要事業とアクションプランについて、「集約型まちづくり推進事業」の実績が出ていないことと、「公共交通ネットワーク形成事業」については、数字の信頼性に欠けるように思います。そういった点を踏まえると、もう少し経過を見た方がいいということから、B評価でいかがでしょうか。

●委員 (意見なし)

- 会長 ではB評価といたします。続いて次の評価に移ります。

【基本目標5の(3)についての議事】

- ◇事務局 ～基本目標5の(3)について説明～
- 会長 「新たな地域の拠点づくり」について、既に1件ありますが、平成31年度に3件の目標は達成できそうですか。
- ◇事務局 現在ハード面について長穂地区と和田地区について、協議を進めております。
- 会長 順調に進みそうですか。
- ◇事務局 長穂地区については場所等も決まり、整備を進めていく段階です。和田地区については、場所等も含め協議に入った段階です。
- 会長 平成31年度より後ろ倒しになりそうですか。
- ◇事務局 協議次第ですが、平成31年度を目標に進めております。
- 会長 他に意見はありませんか。なければ評価に移ります。
事務局の仮評価はA評価ですが、いかがでしょうか。
- 副会長 転入者数の内訳について、中山間地域に転入した方はどのくらいいますか。
- ◇事務局 現在資料を持ち合わせておりません。
- 副会長 中山間地域に特化した施策なので、そういったデータがあればより分かりやすくなると思います。
- 会長 中山間地域の人口はどんどん減少していくので、それを指標にしてしまうと、減少するのは当たり前ということになってしまいます。減少するのをどれだけ抑えるかということで、こういったK P I や主要事業、アクションプランになっているのだと思います。中山間地域の人口データがあればもう少し評価しやすくなると思います。
評価については、転入者数の減少をどれだけ抑えられているかが重要だと思います。B評価ということではいかがでしょうか。

●委員 (意見なし)

- 会長 ではB評価といたします。

3 閉会

- 会長　　これで全ての評価が終了いたしました。全体を通してご意見はありますか。
- 副会長　　基本目標5の(2)「コンパクト・プラス・ネットワークの推進」と基本目標5の(3)「中山間地域の持続可能な生活圏づくり」の2つの推進施策について、矛盾した施策を行っているように見えます。今後もこの二本柱でいくことに変わりないのでしょうか。
- ◇事務局　　コンパクト・プラス・ネットワークの取組と中山間地域の取組は同じ枠組の中にあると考えております。コンパクト・プラス・ネットワークは、都市計画区域だけでなく、市域全体の取組です。拠点に核を作り、その周辺に住んでもらう、これは中山間地域でも都市計画区域でも変わらない取組です。よって矛盾するのではなく、それぞれに合った土地の利用の仕方や居住の在り方、また機能の配置等を行っていくということになります。
- 副会長　　矛盾しないということですね。
- ◇事務局　　そうです。
- 副会長　　中山間地域を見ますと、学校等が減ってしまい、教育については難しくなっているように感じます。スクールバスを走らせる等の取組はあるようですが、子育てに対する中山間地域での支援が見えづらい気がします。そういった部分をもっと前面に出てくると、移住についても他所の方にアピールできるのではないのでしょうか。「中山間地域の持続可能な生活圏づくり」について、現在、高齢者に向けた施策が多いように感じますので、子どもの教育に関する施策も盛り込んでければいいのではと思います。
- ◇事務局　　ご意見ありがとうございます。
- 会長　　他にご意見ありますか。ないようであれば、本日の議事は全て終了となります。前回と本日の会議でいただいた意見については、事務局が整理し、後日皆様にお配りしますので、発言内容に齟齬があった場合は早めに事務局にお知らせください。最終的に、議事録とあわせて私と副会長が責任を持って内容を確認いたしますので、ご一任いただけますでしょうか。
- 委員　　(異議なし)
- 会長　　ありがとうございます。他にご意見ありますか。なければ、進行を事務局にお返しいたします。
- ◇事務局　　皆様、長時間のご審議ありがとうございました。本日が今年度最後の会議となりますので、政策推進部長の山本より、一言ご挨拶を申し上げます。
- ◇事務局　　本日は大変お疲れ様でした。委員の皆様におかれましては、お忙しい中、2日間に渡ってご審議いただき、本当にありがとうございました。また、河田会長におかれましては、限られた時間の中で会議を円滑に進行していただき、誠にありがとうございました。先ほど申し上げましたように、議事内容につきましては、事務局にて整理をした上で、河田会長と中川副会長にご確認いただき、

公表させていただきます。

総合戦略については、平成31年度までの5年間の取組でございます。今回委員の皆様からご意見、アドバイス等いただきましたので、今年度のこれからの取組、また、来年度以降の残り2年間の取組にしっかりと生かしていきたいと思っておりますので、引き続きご支援、ご協力をお願いいたします。

最後になりますが、まだまだ残暑厳しい日々が続いております。皆様のご健勝を祈念いたしまして、お礼の言葉とさせていただきます。本日は大変ありがとうございました。

◇事務局 以上をもちまして、「第2回周南市まち・ひと・しごと創生戦略会議」を終了いたします。ありがとうございました。